

1. ロザリオとは何か？

定義

ラテン語で *rosarium* 「バラの冠」に由来する。英語の *rose* 「バラ」という言葉のもとになった。英語の *rosary* 「ロザリオ」は、辞書では「他宗教でも祈祷に用いられるもの」とも定義される。

ひもに通した玉やひもを結んで珠状にする形式など、さまざまな形のものがある。例えば、仏教では数珠を用いるがいずれも手で祈りの数を数えるための道具である。

2. ロザリオの祈りとは、どのような祈りか？

(1) 道具としてのロザリオ

定義にあるように、ロザリオは、祈りを数えることが目的の道具である。従って、手で持ちながら祈りを数えるのが正しい使い方である。まれに、首から下げるといった使用法が紹介される。これは、あくまで演出である。従って、本来のロザリオの使い方と異なる。

初期には、石を地面に並べたり、葉っぱを並べたりすることで、祈りの数を数えるといった工夫が施されていた。

加工技術が進んだ現在は、石のほかに、プラスチック製、ガラス製、木製、鉄製、アクリル製ビーズなど、多岐にわたる素材が使用されている。また、片手の数本の指だけでも祈りを数えられるよう工夫された形状のものも入手できるようになっている。

(2) 「ロザリオの祈り」の目的

「聖母のバラの花園」を意味する「ロザリオの祈り」は、聖母マリアへ捧げる祈りの霊的花束を、祈りによってバラの花束にみたてて捧げることを目的とする。ロザリオを使って「アヴェ・マリアの祈り（天使祝詞）」を繰り返し数えながら、福音書の中に記されているイエズスの生涯の出来事を黙想していく。

(3) 「ロザリオの祈り」と黙想

黙想するイエズスの生涯の出来事とは、幼児期（喜び）・ご受難（苦しみ）・イエズスと聖母マリアの栄光（栄え）・洗礼・変容（光）の4つの神秘である。なお、光の神秘は、2002年10月にヨハネ・パウロ2世によって追加された。

(4) 「ロザリオの祈り」の変遷

ロザリオには様々な祈りがあったが、珠を繰り返しながら唱える祈りがバラの花輪を編むようなかたちになることから、「ロザリオの祈り」と呼ばれるようになった。かつては、ラテン語で「主の祈り」の冒頭に出てくる「私た

ちの父」を意味する「パーテル・ノステル」や「聖母の詩編」と呼ばれた。「パーテル・ノステル」は、その循環する態様から、かつては、欧州の一部地域で、循環式エレベーターの一呼称として使用されていたことがある。

(5) 「ロザリオの祈り」の構成

現在の「ロザリオの祈り」の言葉は、「使徒信条」・「主の祈り」・「アヴェ・マリアの祈り」・「栄唱」から構成されている。具体的には、五つの出来事の黙想・五回の「主の祈り」・五十回の「アヴェ・マリアの祈り」・五回の「栄唱」を唱える行動である。祈り方に厳格な規則はない。途中で中断しても、再開することができる。

「ロザリオの祈り」は、このように、長い伝統に裏打ちされた祈りである。言葉の一つ一つを意識しながら祈ることに特徴がある。従って、祈りの「回数」や「数」によって質が決まるものではない【マタイ 6 章 7 節】。

3. 歴史

聖パウロは絶えず祈ることを説いている【テサロニケの信徒への手紙 1 5 章 17 節】。また、初期のキリスト者たちは絶えず祈ることを真剣に考えていた。しかし 24 時間祈り続けることは事実上不可能である。そこで、その具体的な解決策として生まれてきた方法が、「聖務日課」つまり今日の「教会の祈り」である。「聖務日課」（教会の祈り）の中心は、150 編からなる詩編を皆でともに唱えるものであり、主に修道者たちの間で行われていた。決められた時間に唱えることが重要とされてきたことから、「時課の祈り」とも呼ばれている。

「ロザリオの祈り」は、ミサとは異なり、私的な信心業である。現代に比べ識字率が低かった古代から中世にかけて、信者たちが「聖務日課」のような祈りを行うことができないかと考え、工夫を重ねた。その過程で祈りが洗練され、詩編 150 編の代わりに「アヴェ・マリアの祈り」を 150 回唱えるという初期の形へと次第に変化した。さらに現代に入ると、人々の生活リズムや習慣の変化に伴い、「アヴェ・マリアの祈り」の回数が 150 回から 50 回へと短く変化した。

「ロザリオの祈り」が普及するようになった起源は、1200 年頃にさかのぼる。聖ドミニコが、異端のカタリ派が勢力を占める南フランス地方で福音宣教を行う際、聖母の出現によってロザリオを使って祈るよう啓示を受けたとされる。聖ドミニコが設立したドミニコ会のロザリオが普及した背景には、「アヴェ・マリアの祈り」に黙想を加えるようになったことが

ある。

「ロザリオの聖母マリア」の祝日は、10月7日である。

これは、教皇のもとに結束したスペイン中心の同盟国が、1571年のレパント沖海戦で、ヨーロッパを支配下に置こうとするトルコ帝国に勝利を収めた日に由来する。

この勝利は、武力ではなく「ロザリオの祈り」を聖母マリアに捧げたことによるとされたため、時の教皇、聖ピオ5世（在位1566年-1572）が祝日に定めたものである。

現代においては、「ロザリオの祈り」が、ヒトの人体やウェルビーイングに与える影響について科学的研究が行われ、知見が蓄積されている。

信仰生活において「祈り」は欠かせない。従って、「祈り」の一形態としての「ロザリオの祈り」を実践するとき、このような歴史を念頭に祈ることが肝要であろう。

4. 日本の歴史とロザリオ

日常生活は、政治によって規定される。日常生活における「信仰」も同様である。「祈り」は「信仰」と切り離せない。換言すれば、キリスト教信仰の変遷は、「ロザリオの祈り」自身がもつ史実によって証明されているともいえる。

我が国には、16世紀のキリスト教伝来に伴い、イエズス会士によってロザリオが伝えられた。キリシタン時代、ロザリオはポルトガル語の *contas* 「コンタツ」と呼ばれていた。「数える」という意味である。

我が国におけるキリスト教信仰は、キリスト教伝来以降、時の為政者による厳しい弾圧と排斥を経験し、現在に至っている。

具体的には、我が国におけるキリスト教信仰は、豊臣秀吉・江戸幕府・明治政府下における国外追放やキリスト教禁教令、そして、太平洋戦争中の特別高等警察（特高）による徹底した思想統制等、度重なる弾圧と排斥を体験してきた。

一方、キリスト教も含めた、ありとあらゆる「宗教」が、太平洋戦争遂行のために、国家によって総動員された過去があることも周知の事実である。

この間も、ロザリオは、キリスト教信仰において、聖母マリアへの敬愛を示すものとして、大切にされてきた。これらの史実は、今日でも各地に残っている史料から読み解くことができるであろう。

<引用文献・参考資料（順不同）・ホームページは 2025 年 2 月 10 日閲覧>

- 1 英辞郎 on the Web <http://eow.alc.co.jp/>
- 2 『ロザリオの祈り』 聖書・観想・意向
(キリストバル・M・バリョヌエボ 著／サン・パウロ／2015 年)
- 3 『目からウロコ ロザリオの祈り 再入門』
来住英俊 著／女子パウロ会／2002 年
- 4 日本の宗教と戦争 1899－1945
小川原 正道著／講談社／2014 年
- 5 女子パウロ会ホームページ
<http://www.pauline.or.jp/prayingtime/rosario01.php>
- 6 聖イグナチオ教会 信仰入門講座 (Sr 杉原) ホームページ
<https://gratia-plena.org/prayer/>
- 7 カトリック中央評議会ホームページ <https://www.cbcj.catholic.jp/>
- 8 仙台市博物館ホームページ
<https://www.city.sendai.jp/museum/shuzohin/shuzohin/shuzohin-29.html>
- 9 ロザリオの祈りの体験と効果 Stöckigt, B., Jeserich, F., Walach, H., Elies, M., Brinkhaus, B., & Teut, M. (2021). *Experiences and Perceived Effects of Rosary Praying: A Qualitative Study*. *Journal of religion and health*, 60(6), 3886–3906. <https://doi.org/10.1007/s10943-021-01299-2>
- 10 比較研究；ロザリオの祈りとヨガのマントラが自律神経循環リズムに与える影響 Bernardi, L., Sleight, P., Bandinelli, G., Cencetti, S., Fattorini, L., Wdowczyc-Szulc, J., & Lagi, A. (2001). *Effect of rosary prayer and yoga mantras on autonomic cardiovascular rhythms: comparative study*. *BMJ (Clinical research ed.)*, 323(7327), 1446–1449. <https://doi.org/10.1136/bmj.323.7327.1446>
- 11 高齢者の日常生活におけるレジリエンス戦略としての宗教性・霊性。
Reis, L. A. D., & Menezes, T. M. O. (2017). *Religiosity and spirituality as resilience strategies among long-living older adults in their daily lives*. *Revista brasileira de enfermagem*, 70(4), 761–766. <https://doi.org/10.1590/0034-7167-2016-0630>
- 12 基調講演「シスター江角ヤスの歩んだ道」
鹿児島純心女子大学 紀要 キリシト教文化研究センター報告
号 7, p. 13-22, 発行日 2019-03-31
- 13 日本国憲法を生んだ密室の九日間
鈴木昭典 著／株式会社 KADOKAWA／2022 年